

オーラルセッション — 要約

AIの活用による場所の感覚の解析

— 燕三条にかかるテキストデータをもとにした感情分析 —

新潟大学 人文社会科学系 准教授

長尾 雅信

アクセント株式会社 アナリスト

南雲 航

新潟大学 工学部 産学官連携研究員

八木 敏昭

キーワード

センス・オブ・プレイス, プレイス・ブランディング, 自然言語処理モデル, 感情の環

各地域の持続にむけた処方箋として、地域間ブランディングに注目が集まる。その精緻化に向け、センス・オブ・プレイス（場所の感覚、以下 SOP）の探索と解析は主要な研究テーマのひとつである。特に人間の無意識領域の SOP は、プレイス・ブランディングにおけるブランドコンセプトやコピーの開発に援用されてきた。その解析は人為的な手法で行われていたが、昨今は AI を活用した解析が取り組まれつつある。そこで本研究では、人々が特定の場所について発する言葉を AI によって解析し、SOP の探索を試みた。データ源は X (旧 Twitter) の投稿による。データの収集対象は燕三条（新潟県）である。同地は 2008 年から本格的にブランディングを行い、伝統と最先端の技術が共存した地域特性は世界的認知を得ている。分析はプルチックの感情の環に基づき、言語解析の Luke モデルを活用した。X のデータ解析から燕三条というプレイスにかかる感情の変遷を把握した。また、特定イベントと感情の結びつきも解析された。本解析法の活用により各プレイスは集合的かつ動的な SOP の変容プロセスを捉え、差異化の糸口を得るだろう。

謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP22H03850 の助成を受けて行われた。本研究の内容は、南雲航が新潟大学時代に長尾雅信と探究した研究をもとにしており、南雲航の現在の所属の見解ではない。